

# 屋上PVの近隣波及（米国コネチカット州）

## ■事例の概要

コネティカット州全体の屋根上太陽光発電の成長について調査した『Journal of Economic Geography』誌の興味深い新論文の結果である。屋根上太陽光発電は、州が太陽光発電の補助金を提供し始めた2004年に最初の数カ所で定着した。その後、屋上システムは「波のような遠心パターン」で、時間とともにそれらのクラスターから広がっていった。

（目的） ソーラーパネルの導入

（対象者） 地域住民

（場所） 米国 コネチカット州

（内容） 2024年のコネティカット州全体の屋根上太陽光発電の成長を調査

**（結果）** ソーラーパネルの設置には“近隣効果”があると結論づけた。 具体的には、1つのブロックに屋上システムを1つ追加すると、半マイル半径内の設置件数が平均0.44件増加した。隣人と話し、詳細を知り、自分にとって意味があるかどうかを考え、設置可能性を高める。

もちろん、太陽光発電が普及している理由は近隣への影響だけでなく、他にも重要な要因がある。同州は2005年から、屋上システムを設置した人に金銭的なインセンティブを提供。同州は電気代が高い為、ソーラパネルの方が理に適う。また2012年に始まった「Solarize（ソーラーライズ）」プログラムを数多く実施し、町が「グループ価格」に参加できるようにした。これらのプログラムは、口コミを広げるのに非常に役立った。

**（考察）** 人々が自分の家にソーラーパネルを設置するかどうかの最良の予測因子のひとつは、年齢でも、人種でも、収入でも、政治的信条でもない。**隣人が先に設置したかどうか境界を越えた人間の意思決定に共通する特徴のようだ。**